

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100119		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	小規模多機能ホームふれあい岡宮		
所在地	静岡県沼津市岡宮598-2		
自己評価作成日	平成26年10月24日	評価結果市町村受理日	平成27年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true&PrefCd=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成26年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様の持っている「できる」に着目し、ご本人様らしい生活を継続して頂くため、様々な活動を準備しております。また個々の想いを大切にし、「自分で選ぶ楽しさ」を実感して頂くため、レクリエーションや飲み物を自由に選択出来るような工夫をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、グループホームが併設されている。開設されて8か月だが、理念が法人や施設・職員個人目標まで展開されて運営されている。ホーム長を中心に、職員の相互信頼とコミュニケーションの良さが、利用者や家族の信頼・安心に結びついている。特に法人の「利用者の要望を断らない」、施設の「レクリエーション・食事・飲み物等選択肢を多く準備し、利用者のできるを尊重する」が印象深い。基本のケアプランの作成・モニタリング・時宜を得た改定のサイクルもしっかりしている。運営推進会議には家族が必ず参加しており、その意見が運営に活かされている。家族アンケートも感謝の気持ちが込められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の理念唱和。また会議の際に運営理念の行動目標に対し、どのような取り組みを行っているかを発表してもらっている。	法人の理念を受け、施設の独自の理念「感謝の気持ち…、利用者の笑顔…、暮らしの支援…」を定め、更に職員の具体的な行動目標を定めて定期的に発表し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への買い物や外出を通し、地域とのつながりが途絶える事がないよう支援している。	新興住宅地で若い人が多い中で、地域の行事やボランティア等の受け入れ・近隣での買い物・近くの角池への外出等を通じて、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族に対し認知症サポーター養成研修を開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、グループホームと合同で開催。運営状況の報告をし、ご意見を伺っている。	開設以来2か月に1回着実に開催され、家族や利用者も参加している。状況報告と共に、感染症の説明やツイッター・伝言ダイヤルの活用等、時宜を得た話題を提供し、意見を伺い運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、ほとんど実施出来ていない。	生活保護の方の相談や地域包括支援センターとは困難事例の相談等は行われているが、その活動は十分とは言えない。	開設して間もないこともあるが、行政とは日常的な報告・連絡・相談ができるよう検討されたい。また、介護生活相談指導員の活用も考えられる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠のみ実施。他は身体拘束は行っていない。	身体拘束0宣言を行い、方針・マニュアルを整備し、職員は具体的な禁止行為を理解し、身体拘束の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の機会を設けていない。今後実施していく予定。虐待ケースを受けており、包括と連携している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の機会を設けていない。今後実施していくよてい。まや該当ケースなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つ確認をしながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご意見箱にて要望を伺っている。	日常の触れ合いや送迎の車中・来訪時・運営推進会議等で、利用者や家族の意見を吸収し、それを運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談を開催している。また必要時は時間を作る様に努力している。	日常の職員との触れ合い、月2回のカンファレンスや連絡帳等で、職員の介護の実態の把握や意見・提案を受け止めている。また、職員とは定期的に面談し、それを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外研修、事業所内研修を頻繁に開催し学びの機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループとの合同勉強会や懇親会を開催し交流の機会を確保している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスに馴染めない場合、通いから訪問サービスに切り替え、馴染の関係を構築するなどの柔軟な対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初月は、なるべく訪問回数を増やし対応。訪問が難しい場合も、電話連絡にて利用状況の報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメント等を行う中で、必要であれば希望以外のサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯等を職員と一緒にし、お客様ではなく、一緒に生活している家族になれるよう取組を行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時に、家族の本人への不満を傾聴しながら、一緒に介護をさせて頂きたい旨を説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や、近所のスーパーに買い物に行く等の支援を行っている。	家族や親せき・知人の来訪も多く、馴染みの人との関係継続に努めている。また、洋品店や美容院等、懐かしい場所への対応にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、席の配慮や、職員が間に入り円滑にコミュニケーションが行えるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時連絡する事により、再契約をされたケースあり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とケアマネが会話をする場を多く持つよう心掛けている。	食事や入浴時等の会話から職員が利用者の気持ちを汲み取っている。また家族と何が必要であるか話し合っ本人の意向に沿った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在、あまり出来ていない。これから改善していく必要があると考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを実施、また毎日の夕礼でミニカンファを開催している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで実施。またモニタリングの結果を会議にて情報共有している。また、その情報等をケアプランに反映させている。	夕礼で一日の気付きを共有し、毎月のモニタリングを経て次の介護計画に反映させている。家族の意向は送迎時や連絡帳から集めている。管理者や職員の経験を活かしたアイデアを即試みる姿勢で計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別記録に記載している。また、重要な情報に関しては夕礼で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族の状況に応じ、柔軟に通い・泊り・訪問のサービスを組み合わせ提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方にお申し、通いの送り出しを協力して頂くなどの取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時、主治医・ケアマネ連絡票で情報提供を行っている。	受診は基本的に家族が付き添っているが、事業所で支援している場合もある。専門医の受診も必要に応じて職員が同席し現状に適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、情報提供及び情報共有をし連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院の医療連携室等と連携を図りスムーズに在宅に戻る事が出来るよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	該当者なし	自己評価時と外部評価時で状況の変化があった。終末期と認められる場合には家族協力のもと看取り支援を行っている。担当者会議に医師も出席し、在宅、ロングステイそれぞれの支援の詳細を介護計画に落として関係者で共有し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の実施、またマニュアルを掲示し、いつでも観覧出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を併設のグループホームと共同で実施している	消防署の協力を得て助言があり、直近では夜間を想定した避難誘導を実施した。法人による防災委員会が毎月行われて意識を高めている。	最新の防火設備を整えた建物であるが、万が一の有事の際に近隣の協力を得られるよう取り組みが望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月2回の会議において、日々の言葉使いを振り返る時間を設けている	理念を細分化して利用者が幸せだと思える生活を支援することについて、管理者が毎月の会議で意識付けを図り、また職員が一カ月を振り返る取り組みで一人ひとりを大切にしたいホーム作りに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選択する機会を設ける事を大切に、レクリエーションや飲み物を選択出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等も強制参加にはしていない、また昼寝や食事時間も出来る限り希望に沿えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に在宅の利用者様なので、爪や目脂等の基本的な事に気を付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事の準備、片付けを行っている。また希望に応じ外食支援を行っている	糠漬けや卵焼き、おやつ作り等利用者が出来ることは積極的にやっていたい。職員手作りの食事は利用者も楽しみにしており、リクエストにより外食や出前等も普段とは異なる楽しみとして取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望があれば、朝食・夕食時の別メニューの提供を行っている。また好きな飲み物を提供出来るよう、選択制を持たせるなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。きちんと磨けない方には、仕上げ磨きを職員にて行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特にロングステイされている方は、排泄パターンを調べ、トイレにお誘い出来るようにしている。基本的には自宅での方法を施設でも行う様にしている	小規模多機能型として家庭との連続性を持たせることが重要と考え、家族と話し合っその利用者だけの排せつ方法を組み入れる等柔軟な支援をしている。声掛け、誘導等出来るだけトイレで排せつできるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にオリーブオイルを使用する、腹部マッサージを行うなどの支援をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り配慮しているが、基本がデイサービス(通い)の為、100%の実施は出来ない	機械浴と一般浴の浴槽があり、状態に応じて選択している。毎月入浴週間を設けて職員のアイディアを活かした季節の風呂等で楽しく入浴してもらえるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や状態を確認し、休息の時間を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報やマニュアル、服薬チェック表を作成し行っているが、現段階では薬に関し理解し、症状の変化を的確に把握する事は出来ない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人に確認し、レクリエーション等の提供が出来るよう配慮している。また糠床担当など役割を担って頂く支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や外食、ドライブ等を頻繁に実施している	日常的には天気が良ければ利用者の希望に沿って周辺の散歩を行っている。車を使って買い物や食事等ドライブも利用者には好評である。通所利用者の送りの際には宿泊の利用者も同乗して時々景色を楽しんでもらえるよう図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	在宅のため実施していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に施設の電話を使用して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔、温度等に配慮しているが、今後居心地の良い空間作りを更に進めて行く必要がある	開設間もない建物は使い勝手良く設えられている。更に利用者にとって過ごしやすい空間作りとしてテレビの向きを変える等工夫している。共用部分の椅子に家からお気に入りの座布団を持参している利用者もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの空間を仕切る、和室を活用するなどし居場所作りの工夫を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談し、奥様の写真をお持ち頂いたり、日々お使いになる物を自由に持って来て頂いている	小規模多機能事業所であっても、居室に箆箆やテレビ、家族の写真、健康器具等利用者の大切なものが持ち込まれている。利用者が安心して過ごせるよう家族と協力していることが窺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動する事が出来る様、清掃等をこまめにし環境整備を行っている。トイレの表示等に関しては賛否両論があるため、今後検討していく		